

CITATION:Lauzon L, Hodnett ED. Labour assessment programs to delay admission to labour wards *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2009, Issue 1. Art. No.: CD000936. DOI: 10.1002/14651858.CD000936.  
CRG名:Cochrane Pregnancy and Childbirth Group.

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月:30 January 2004  
Clib issue No.;N/U:2009 Issue 1; Update

## アブストラクト

**背景:**分娩評価プログラムの目的は、分娩が活動期に入るまで入院を遅らせることと、分娩開始が確定(established labour)していない女性に対する不必要な介入を防ぐことである。

**目的:**本レビューの目的は、分娩が活動期に入るまで入院を遅らせることを目的とした分娩評価プログラムの効果の評価することであった。

**検索戦略:**Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Registerを検索した(2004年1月)。

**選択基準:**分娩評価プログラムを分娩棟への直接入院と比較しているランダム化試験。

**データ収集と分析:**試験の質を評価した。

**主な結果:**209例の女性が登録された1件の研究を選択した。この試験の質は優れていた。分娩評価ユニットにランダム割付された女性は、分娩棟に直接入院した女性に比べ、分娩棟滞在時間が短く(加重平均差 -5.20時間、95%信頼区間-7.06~-3.34)、分娩時の分娩促進薬(オッズ比0.45、95%信頼区間0.25~0.80)、および鎮痛薬(オッズ比0.36、95%信頼区間0.16~0.78)の投与を受ける頻度も低かった。分娩評価群の女性には、分娩中のコントロールレベルがより高いことが報告された(加重平均差16.00、95%信頼区間7.52~24.48)。帝王切開率および母体と新生児のアウトカムの他の重要な指標に及ぼす効果の評価するためのエビデンスは不十分である。

**レビューアの結論:**分娩活動期まで入院を遅らせることを目的とした分娩評価プログラムは、正期産妊娠女性にとっては利益になると考えられる。

## 平易な要約(Plain language summary)

### 産科棟への入院を遅らせるための分娩評価プログラム

分娩の徴候が見られたために来院する妊娠女性は専門プログラムによる正式な評価から利益を得られると考えられます。

病院分娩評価プログラムは、分娩の徴候が見られたために来院した女性が分娩活動期(子宮経管の開口)に入っているかどうかを分娩棟に入院する前に確認する専門プログラムです。これらのプログラムに参加する正期産の女性は、評価ユニットで過ごすことも、庭を散歩することも、自宅に帰ることも、分娩棟に入院することもできます。本レビューでは、これらのプログラムに参加する正期産の女性は分娩棟滞在時間が短く、よりコントロール感を感じ、分娩促進薬や疼痛緩和薬の使用がより少ないことが示されました。これ以外の母親や新生児または病院

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日:2015年 1月 8日

**ご注意:**この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。